

# 化学工業日報

## レアメタル供給で先端産業に貢献

アドバンストマテリアルジャパン(AMJ、本社・東京都港区)は、二〇〇四年一月に蝶理からMBO(経営陣による企業買収)で独立、レアメタル・レアアースに事業領域を特化したユニークな活動を推進中。レアメタルは供給逼迫が顕在化して価格が上昇、電子関連など先端産業などに大きな影響を与えている。そんな中でアジア、ロシアなどに供給源を求めて現地まで足を運ぶ中村繁夫社長の行動力は非鉄関連業界でも有名になりつつある。今後は鉱山開発に加えてリサイクルを強化したい」という中村社長に事業方針などを聞いた。

### アドバンストマテリアルジャパン



中村社長に聞く

「三つの方針がある。一、AMJの基本戦略を聞かせてください。二つ目はレアメタル(レアアース)を対象を特化していることだ。二つ目は活動する地域も資源が豊富で開拓の余地がある中国、ロシア、中央アジアに重点を絞っている。三つ目はメーカー機能を持った商社に変身すること。すでに委託加工取引が全体の六〇%を占めるようになっていて」

「最近の新たな取り組みは、活動地域を絞ってきた」といったが、この三地域では十分な供給力が確保できないことが分かっていた。このためカナダ・トロントに事務所を開設して北米でも活動を開始する」

## 資源開発に加えリサイクル強化

【沿革】

- ▶1970年代 蝶理で無機薬品などを中国から輸入
- ▶1980年代 タングステン・希土類など輸入本格化
- ▶1990年代 旧ソ連崩壊でチタン・マグネシウムなど取引本格化
- ▶1994年 カザフ共和国のチタン工場に融資、輸入実績は3万トンを超
- ▶2003年3月 蝶理から分社化し蝶理アドバンストマテリアル設立
- ▶2004年1月 MBOで蝶理から独立、アドバンストマテリアルジャパンとして新創業

「市場経済の中でどのようか回収、リサイクルを行えば合理的かをメーカーなどに提案していきたい。国内備蓄のあり方も研究する必要がある」という。海外の商流に入り込んで、日本のスクラップ業者などに供給していききたい」

「今春には大手(埼玉)にエコ・リサイクル研究所を設置しています」

「原料を高騰の要因は供給国が内需型に傾いている。レアメタルがこれほど高騰した要因をどうみているのか。」

「原料を売りたい国がなくなってきたからだ。例えば中国は外貨獲得のために資源を上昇したのでタイミングが良かったが、これが実力だとは思っていない」

「売上高は前年度比五〇%増の百二十億円が見込める。独立した途端に市況が良くなったが、これが実力だとは思っていない」

「環境面での支援ではないか。中国では新工場建設にあたって、厳しい環境規制をクリアしなければならなくなっている。スポンジチタンの増強計画もそれで苦労していると聞いている。日本の優れた環境技術を生かせる可能性は十分にある。ODA(政府開発援助)でも単純な援助ではなく、資源調達を視野に入れた取り組みが必要だ」

「今年度の業績見込みは。」

「売上高は前年度比五〇%増の百二十億円が見込める。独立した途端に市況が良くなったが、これが実力だとは思っていない」

(聞き手) 風間彰太郎